

授業改善推進拠点校 令和4年度実施計画書

1 具体的な取組内容

(1) 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の効果的な分析方法の開発・実践

- ・昨年度の研究の成果と課題を見直し、学力や学びに向かう力について改めて東京都や新宿区の学力調査を通して分析し、授業や学校生活の中で児童の課題改善に向けた取組みを推進するとともに、継続的にICTの効果的な活用を図る。
- ・多国籍な児童が在籍することからも、言語能力の向上に重きを置き、国語科の「読むこと」を中心に一人一人の語彙力の獲得を目指し、作文指導を通して文章力・表現力の育成について分析していく。

(2) 授業改善の実現に向けた組織的なOJT推進の実践事例の開発

- ・奇数学年グループ（1・3・5年）、偶数学年グループ（2・4・6年）に分かれ年間2本の研究授業を行う。これらを国語科の模範授業となるようにし、「戸山スタンダード」と呼べる指導法等を作成する。
- ・各児童における課題や具体的な教科指導法について、主幹教諭・主任教諭を中心としたOJTを意図的・計画的かつ継続的に取り組む。また、普段の授業の中でも常にお互いの授業を見合える環境を整える。OJTリーダーの模範授業を見て学び、質疑応答し合う場を設定する。
- ・交換授業や学年一斉授業等、指導形態の工夫を含め、授業づくりの改善に積極的に取り組む。

(3) 児童・生徒一人一人の学びに向かう力等を育む指導方法の開発・実践

- ・児童の主体的・能動的な活動により、授業理解と学力向上につなげ、指導計画を柔軟に見直ししていく。
- ・単元ごとに定期的なフィードバックを児童へ行うようにすることで、一人一人の課題を明確にし、「できた」「分かった」という達成感の積み重ねにより自己向上心を身に付けさせ、指導と評価との一体化を通して、学習に対する意欲を高められる授業づくりに取り組む。

(4) 効果的な家庭学習の指導事例の開発

- ・授業においてもICT機器を積極的に使用していくことでGIGA端末に慣れさせ、個々の課題のレベルや要求に応じたデジタルドリルを活用した家庭学習を進められるようにし、各児童に応じた支援をしていく。
- ・自己の課題に主体的に取り組ませるために、日頃から教師自身が一人一人の児童の課題や苦手を把握し、保護者会等で現時点での理解度、達成感や今後の方針などを伝え、家庭への啓発も行う。

(5) 研究・開発による成果の全都的な発信及び普及

- ・様々な教科で辞書引き学習を活用したり、国語の時間を活用した読書科の時間の設定を継続して行う。
- ・研究の取組、成果等は随時学校HP等で公開し、東京都全体に情報発信し、意見や感想を受け入れ授業改善に生かす。

(6) その他、児童・生徒の学力向上を推進する取組

- ・日本語加配教室の加配教員を中心に、日本語教育の指導法を活用し、各クラスでの日本語の基礎的な能力の向上を図るための資料の整備、共有しながら考える力の基礎となる語彙力を自主的に増やし、読む・書く力の向上を図る。
- ・昨年度に引き続きGIGAスクール構想と一体化した情報活用能力の育成について、研究の視点との適合性を合わせ、効果的な指導を行う。
- ・児童のコミュニケーション能力向上を目指し、関連性のある語彙や表現力の獲得を高め、カリキュラム・マネジメントの視点で教育活動を実践していく。